



## 大震災から10年・交流の記憶⑥

花を植えることで、地域みんなが笑顔に  
見えない壁を乗り越え、新たな交流が始まる

2015年、いわき市永崎地区に、原発事故により避難している双葉郡の人が入居する県営下神白団地が建つことになった。「永崎女性の会」会長の高久さんは「ふるさとを失い、避難を余儀なくされた双葉郡の人が、孤立しないで心穏やかに過ごせるように」という思いから、会で何かできないものかと話し合った。

「交流するとしても、被災地を見てみないと避難してきた方の気持ちかわからない」と、2014年10月、会のメンバーはバスで浪江町を訪ねた。請戸小学校や浪江駅前など町内各地を視察し、荒廃した町の様子に言葉を失った。そして「何かをしてあげようではない、避難してきた方の気持ちに寄り添うことが大切」と皆の意見が一致した。

2015年4月、入居が始まったばかりの下神白団地の管理人宅を訪ね、「永崎地区も津波被害で大変だった場所。これからはお互いに交流していきなさい」と話し、花植え交流会を提案。そして6月には、花や土などを会を準備し、プランターに花を植える作業を合同で行った。1・2号棟で始

まった交流会を、ほかの棟でも実施したいとの声  
が上がり、11月には全ての棟の方が参加して20  
0世帯に花のプランターを配布することができ  
た。最初はみんな黙々と植える作業をしていた  
が、だんだんと会話が増えた。今では団地の集会  
所で行っているカフェでおしゃべりするように  
なった」と高久さん。

これから先も、同じ地域の人が  
笑顔になれるように

会では永崎地区の県道沿いに花を植えるポ  
ランテアもしているが、花植え交流会で交  
流が進んでから、団地の方も積極的に手伝っ  
てくれる。毎回20人ぐらいが参加し、とても助  
かっているという。

県営下神白団地に暮らす佐山さんと滝口さ  
んは、江名中学校の生徒も参加するようにな  
るなど、賑やかになった交流会を楽しみにし  
ている。「団地に来てから地域の人と交流させ  
ていただき、すごく居心地がいい。良い人たち  
と巡り会えてよかった」と2人は口を揃える。  
高久さんは、これからも変わらず、同じ地域で  
暮らす人が笑顔になれるような活動をしてい  
きたいと考えている。



永崎女性の会 会長

中 高久 香代子さん

県営下神白団地

左 滝口 君子さん

右 佐山 かをるさん

永崎女性の会は2014年、いわき市永崎地区の  
住民16人で発足し、現在会員は41名。県道沿い  
の花植え、小・中学校での絵本の読み聞かせの  
他、県営下神白団地とのプランター花植えなど  
様々な交流活動を行っている。